

専教寺寺報

浄土真宗本願寺派 一乗山 専教寺

題字 大橋曾水

〒714-1201 岡山県小田郡矢掛町矢掛2033

TEL.0866-82-0488

URL.<https://www.senkyoji.com/>E-Mail.senkyoji@senkyoji.com

住職 釋龍生

お慈悲に抱かれて

先日、笑福亭鶴瓶さん主演の「35年目のラブレター」という映画を観た。

この映画はノンフィクションで、モデルとなつたのは奈良県在住の西畠保さん、今は亡き皎子さん夫妻だ。

八十年前の戦争がもたらした戦中、戦後の社会背景の中で、誰もが精神的にも、肉体的にも蝕まれながら人生を翻弄されていった。その苦難は、保さんの幼少の身の上においても例外ではなかつた。母親を病氣で亡くし、小学校二年生の時に

それと時を同じくして、貧しさ故のある出来事で学校でいじめに遭い不登校となつた。その後は、全く学校に通わなかつた。その結果、文字の読み書きができぬままに大人になつてしまふ。大人になつてからの保さんは、社会の理不尽に生きづらさを感じる中で、自らの境遇に理解を示す身の境遇に理解を示す。寿司屋の大将と出会う。そして寿司職人としての仕事を、定年まで全うすることで人生を新たに切り拓いていく。その間、奥さんとなる皎子さんと、気乗りしなかつた見合いをする



◎

的な出逢いとなつて結婚する。しかし文字の読み書きができないことについては、結婚後も皎子さんには内緒にしていた。だが隠し事をするということは、大体の場合において長くは続かないものである。ある日、町内会の回覧板に世帯主である自らの署名を求められ、ついに読み書きができることが奥さんにバレてしまう。保さんは別れることを覚悟して、

その現実を打ち明ける。

しかし奥さんの反応は意外なものだった。皎子さんは保さんに対する「辛かつたな、これから一緒にがんばろ、今日から私があなたの手になるわ、あんたが書けるようになるまでの代わりになるね」

一緒にがんばろ、今日から私があなたの手になるわ、あんたが書けるようになるまでの代わりになるね

と心機一転、夜間の中学に入学して、文字の読み書きを勉強するのである。

親鸞聖人（以下、宗祖）のご和讃に、

十方微塵世界の

念佛の衆生を

みそなはし

攝取してすてざれば

阿弥陀となづけ

たてまつる

とある。

このご和讃の意味は、数限りないすべての世界の念仏するものを見通され、攝め取つて決してお捨てにならないので、アミダと申しあげる、である。

先の映画の、従来文字の読み書きができるこ

とに自らの字で綴つたラブレターをお返ししたいこの時、いつも恵まれな



いう言葉が出てくる。宗

祖はこの言葉の意味を、「一念多念文意」という

お書物に、「摂はをさめ

たまふ、取はむかへとる」

と示される。私たちは煩

惱具足の凡夫であって、何人たりとも例外なく本

來救われるはずのないものである。私たちの現実

の姿は、救われるはずもなく、どうしようもなく、

あたかも未踏の雪原を行

く当てもなく、さまよい

歩いているようなもので

ある。アミダさまは、そ

んな極限の状態に置かれ

ているにもかかわらず、

その現実を受け入れない

だけ心から救われ、どれだけ安心したことだろうか。

どころか、むしろ背を向けて逃げ惑う私たちに、

「辛いね、苦しいね、でもう大丈夫だよ、あな

先のご和讃に、摂取と

たが仏さまになるまでずっとそばに寄り添っているよ、そして救いのはたらきが、あなたの身に沁み入るようにはたらき続けるよ」と、お念佛を通して常に優しく語りかけてくださっている。

アミダさまは、私たちがどこにいても、どんな姿であっても、優しく手を差し伸べて、温かく包みながら、必ず救つてくれる佛さまである。私たちは、誰一人として同じではないたった一つの人生を歩む中で、さまざまな境遇を受け入れながら、精一杯生きている。しかしどんな生き方であっても、アミダさまは全ての生きとし生けるものに同じく、分け隔てなく、

アミダさまのお慈悲、救いのおはたらきであるお念佛を、命を終えて仏となるその時まで、この身に届けてくださっている。私たちはアミダさまから常に届くお念佛・救いのおはたらきに感謝して、安心して二心なく素直にお念佛をいただくのみであります。それはすなわち、心から救われ、心から安心するということに他ならないのではないだろうか。



挿絵 内村 壽美子

今年は11月23日（日）に 報恩講法要 が勤修されます。

このたびのこのご縁は 初事と思うべし
このたびのこのご縁は 我一人の為と思うべし
このたびのこのご縁は 今生最後と思うべし

お聴聞の心得です。ご講師がどんなご法話を取り次いでくださるか心待たれる今日このごろ。大切なご縁です。このご縁を逃すことなく共に味わわせていただきましょう。ご家族でぜひお参りください。



感じ方のちがいを大切に

坊守 佐々木 ひろみ

本堂に「MIDO SAN（御堂さん）」という雑誌が置いてあります。内容は、有名人のインタビュー記事やエッセイに始まり、法話や、浄土真宗の教えを易しく説いたコラムなどで構成されています。

有名人と言いましたが、タレント、漫才師、テレビでおなじみの社長などさまざまです。それを読むと、その方の経験や考えに感心する一方で、自分自身の「思い込み」に気付かれるのです。自分がテレビで見た印象によつて、「この人がこんなことを言うなんて意外だな。」と思つてしまつ

最近、生成AIが使われる世の中になつてきました。私も、人に教えてもらつて、試しに使ってみました。すると、びっくりするぐらい便利なのです。例えば、冷蔵庫中の食材を見て、何を作ろうかなと思つたとき。

「イタリア料理みたいなのが作りたい。なす、タマネギ、豚肉、・・・を

会つたことも、話したこともないのに、勝手にその人のイメージを作つてしまつていてことを反省する時間でもあるのです。

そして、その人の思い、その人の言葉というのは、その人にしかない、大切なものだということを感じさせられます。

しくなります。AIが出

しを参考にしたり、自分の考えをもつた上で利用したりするのは便利でいいと思います。でも、それだけに頼ると、自分で考えられなくなつたり、自分の言葉で表現することができなくなつたりしてしまつのではないでしょ

ら、食べる物がなくなつて死んじゃったんだね。かわいそうだね。アリさんは、「食べ物をためておいた方がいいよ」と教えてあげればよかつたのに。ばかにしちゃダメだよ。」としました。「なるほど、そう感じたんだね」と思いました。それが人それぞれの感じ方であり、きっと、AIでは出てこないでしよう。

いくら便利な世の中になつても、それぞれの個性を大切にし、自分の言葉で思いを伝えることは大切にしていきたいと思います。



臥龍松を維持管理するには たくさんのお金がかかります。 矢掛町の重要文化財の保存に ぜひともご協力下さい。

一口1,000円から受付けています。

1,000円ご寄付の方には臥龍松のポストカード
をプレゼント。お寺にご連絡下さい。



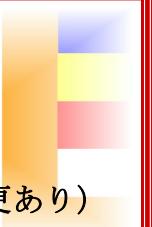
※この寄付はあくまで任意です。

仏教讃歌

毎月第2火曜日 午後1時30分～（変更あり）

講師：奥野 純子（ソプラノ）

ご近所の門信徒を誘って、ぜひご参加ください。
お待ちしております。





たよってうれしい、たよられてうれしい。 認定NPO法人 おてらおやつクラブ

専教寺では、困窮する家庭の支援や子どもたちを育むために、おてらおやつクラブに登録して物資支援の活動をしています。集まった支援物資はおてらおやつクラブに登録している支援団体へ届けさせてもらっています。

今後、ご協力いただける方は、以下の物を専教寺に届けてください。

(持ち込みでも宅配便でも受け付けます)

支援物資は隨時受け付けております。

少しでも構いませんので、ご協力いただけするとありがとうございます。

- ・ 食料品（消費期限まで1ヶ月以上あるもの）
- ・ 文房具（新品）
- ・ 子供服（洗濯済、汚れのないもの）
- ・ 玩 具（小学生以下対象）

専教寺の墓地をご使用されるご門徒の皆様へ

墓地清掃時の除草剤使用についてのご注意

植木屋さんによりますと、臥龍松の根は非常に長く、境内だけでなく墓地の地下にも広く伸びているそうです。そのため、墓地に除草剤を撒くと、臥龍松に影響が及ぶ恐れがあります。特に粒状の除草剤は、松などの境内の木を枯らしたり、葉の色を変化させたりする原因となる場合があります。

つきましては、次の点についてご協力をお願いいたします。

- ・ 墓地を清掃される際は、できるだけ除草剤の使用をお控えください。
- ・ やむを得ず使用される場合は、**粒状のものではなく液体タイプのものを**ご使用ください。

永代経法要

令和7年4月27日(日)



お知らせ

来年令和8年より、これまで毎年1月1日の午前中(午前10時～)におつとめしてまいりました元旦会を、除夜会終了後に引き続いておつとめさせていただくこととなりました。したがって、元旦会は、従来の1月1日午前中から、除夜会終了後の深夜(午前0時45分～)のおつとめへと変更になります。つきましては、元旦会にお参りくださる門信徒の皆さんにおかれましては、深夜のお参りとなりますので、くれぐれもお気をつけてお参りくださいますようお願い申し上げます。

専教寺伝言板

専教寺の臥龍松の紹介映像を

倉敷市公式 YouTube

「高梁川流域デジタルアーカイブ」

で観ることができます。

専教寺のホームページにもリンクを貼って

いますので、ぜひご覧ください。



報恩講

11月23日(日)正午～(受付:午前11時30分～)

講師:本願寺派司教・総合研究所所長 佐々木 義英 師

除夜会

12月31日(水)午後11時45分～

大みそかの夜、1年の行事のしめくくりとしておつとめし、除夜の鐘をつきます。

元旦会

令和8(2026)年1月1日(木)除夜会終了後

午前0時45分～

来年より、除夜会に引き続いておつとめいたします。